

# 指定管理者制度導入施設 年度評価シート

評価年度	令和5年度
------	-------

## 1 基本情報

公の施設名	相模原市立東林ふれあいセンター
指定管理者名	ヤオキン商事株式会社
指定期間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで
施設設置条例	相模原市立ふれあいセンター条例
施設の設置目的	市民の健康の保持及び増進並びに高齢者の福祉の向上に寄与するための施設 (相模原市立ふれあいセンター条例第2条)
施設概要	所在地：相模原市南区東林間1丁目22番17号（林間公園内） 構造：鉄骨造2階建 建築面積：680㎡ 延床面積：1,245㎡
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

## 2 管理実績

項目（単位）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
利用者数合計（人）	374	16,296	32,657	47,845			
利用料金合計（円）	15,675	873,550	1,342,802	1,674,525			

※令和2年度は令和2年4月1日～令和3年1月3日、1月8日～3月21日で休所（開所14日間）

※令和3年度は令和3年8月6日～9月30日で休所（開所300日間）

## 3 成果指標の達成度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
<b>C</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果指標の達成度は82.3%となり、評価基準により「C」評価とする。</li> <li>令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したが、目標値には達しなかった。年々上昇が見られることから、さらなる広報活動等により、施設利用の促進を図りたい。</li> </ul>

指標	
指標名（単位）	施設利用率（夜間を除く）（%）
指標式と指標の説明	専用利用に係る承認件数÷専用利用申し込み可能件数（夜間を除く）

項目（単位）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値（%）	84.0	84.0	80.0	80.0	81.0	81.0	82.0
実績値（%）	17.3	49.3	61.3	65.8			
達成度（%）	20.6%	58.7%	76.6%	82.3%			

#### 4 事業の実施状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の達成度は118.3%となり、評価基準により「A」評価とする。</li> <li>・「東林ふれあい市」の開催により、利用団体が日頃の活動成果を発表する場を提供したほか、地域の交流機会の拡大を図ったことを評価する。また、定員と同数の参加を得た事業も複数あり、事業の定着と同時に、施設の活性化が図られている。</li> <li>・引き続き、参加者からの声を反映させるなど、魅力のある事業の実施を期待したい。</li> </ul>

企画提案事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
【高齢者の福祉の向上を図る事業】 ふれあいサロン (脳トレ体操・ちぎり絵)	4月～3月	<p>(脳トレ体操) カラオケ機器を用いて、健康体操や脳トレなどのプログラムを提供した。事前受付なし、当日参加制。脳トレ体操後にいらした方同士で機能回復コーナーや麻雀を利用する等、高齢者同士の繋がりが生まれた。 全42回 465人参加 (定員840人)</p> <p>(ちぎり絵) 指先を使った細かい作業により、脳の活性化を促進させるもの。事前受付なし、当日参加制。参加者の作品による展示会を開き、ご家族や友人、施設利用者など多くの方にご覧いただいた。 全51回 291人参加 (定員1,020人)</p>	△
【市民の健康の保持及び増進を図る事業】 健康太極拳	4月～3月	初心者から経験者までご参加いただける太極拳講座を毎月第2・4金曜日に実施。事前受付なし、当日参加制。講座ボランティアが補助をするため参加しやすいとの声をいただいた。 全24回 395人参加 (定員480人)	◎
【公園内に位置する施設の立地条件を活かした事業】 星を見る会	8月・12月	林間公園の広々とした空間を生かし、プラネタリウム解説員や相模原市立博物館職員協力のもと天体観測を実施。未就学児から高齢者まで参加があり、望遠鏡を触ったり、公園横で月を観察する中で多世代の交流があった。 全2回 8月：41人参加、12月：27人参加	◎
【高齢者の福祉の向上を図る事業】 認知症関連事業	9月・3月	<p>9月に「認知症予防 元気いきいき体操」「認知症サポーター養成講座」「楽しく学ぶ認知症予防講座」、3月に「楽しく学ぶ！認知症の理解と予防」を実施した。</p> <p>自宅で簡単にできる運動や家族や身の回りの方のために認知症を学びたい方、いざ自分が認知症となる前に対処を知りたい方等、講座によって対象を分けた。</p> <p>ロビー展示では相模原市や地域包括支援センター、病院等が発行する認知症関連リーフレットの設置のほか、「手を動かす」「声に出して読む」「あの頃を思い出す」といった様々な取り組み方で、ここからだの両面をサポートする書籍を集め展示(館内閲覧可)。一緒に来館したご家族やお友だちと言葉遊びや昭和の新聞・写真集を見て会話する姿が見受けられた。</p> <p>元気いきいき体操：全1回 19人参加 (定員20人) 認知症サポーター養成講座：全1回 15人参加 (定員20人) 楽しく学ぶ認知症予防講座：全1回 12人参加 (定員20人) 楽しく学ぶ！認知症の理解と予防：全1回 12人参加 (定員20人)</p>	○
ミニコミ誌の発行	4月～3月	館内をはじめ、市関連施設や自治会、取材先等に配布。センター事業やそれに関連した特集などを掲載した。 毎月発行 年発行部数6,100部 (月500部、6月のみ600部)	◎

自主事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
【市民の健康の保持及び増進を図る事業】 小児救命事業	3月	救急搬送に関するポスター展示とリーフレット配布のほか、東林地区の地図（約1.7m×2.4m）を貼り出し、センター周辺のAEDマップを来館者ご自身で作成いただいた。また、ふれあい交流室にて小児・成人の応急手当とAED操作に関する動画を3/10～3/31の期間中放映した。	○
【地域の世代間交流を促進する事業】 おはなし会	4～3月	季節や行事にちなんだ絵本の読み聞かせや工作を実施。隣接する公園を利用する親子等に事業参加を促し、施設の既存利用者である高齢者との交流を促進した。クリスマスには「絵本で子育て講座」で生まれたボランティアによる読み聞かせも行った。 全12回 134人参加（定員180人）	○
【地域の世代間交流を促進する事業】 東林ふれあい市	5月	近隣地域の方や日頃センターを利用される方の交流を目的として、高齢者登録団体、一般団体、地域の障害者団体等が展示・ステージ発表・体験を行った。 参加者からは「楽しかった」「また参加したい」とおむね好評価をいただいております、イベント開催後も団体への活動見学や新規会員の増加につながったとの声があった。次回の令和6年度の開催に向けて作品を作る、今度はステージでやってみたいなど、団体の活動継続への意欲向上が見受けられた。 参加人数：延べ2,216人 参加団体：全16団体（内、高齢者登録団体は11団体）	○

## 5 利用者の満足度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
<b>S</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成度は110.6%となり、評価基準により「S」評価とする。</li> <li>令和4年度は、前指定管理者による5年間の達成度の最高値を上回ったが、令和5年度はそれをさらに上回り、高い利用者満足度を得ていることを評価する。さらに満足度を高められるよう、継続して改善に取り組まれることを期待する。</li> </ul>

利用者満足度調査	
調査手法/サンプル数	利用者へのアンケート調査 実施期間：令和5年11月14日（火）～12月28日（木） 回答数：705件
目標値の基準	全体的な満足度の設問に対する「満足」と「やや満足」の回答割合

項目（単位）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値（%）	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績値（%）	-	98.3	98.7	99.5			
達成度（%）	-	109.2%	109.7%	110.6%			

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
ご意見箱設置	通年	1・2階にお客様からのご意見箱を設置。いただいた意見・要望は風除室掲示板に返答と今後の対応を添えて貼り出している。
講座アンケート実施	通年	講座アンケートを作成・配布。アンケート結果をもとに講座内容や実施時間の変更、難易度別のコース分け等へと反映している。

## 6 施設の経営状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
S	施設においては本体事業収支、全体収支とも黒字であり、法人の経営状況においても特段の課題はないことから、評価基準により「S」評価とする。

施設の収支概要		※直近3年間について記載		
		(千円)		
項目		令和3年度	令和4年度	令和5年度
収入 (a)		40,520	41,879	40,841
	指定管理料	37,741	37,269	36,279
	利用料金収入	874	1,343	1,675
	その他の収入	1,906	3,267	2,887
支出 (b)		36,902	41,633	40,770
	人件費	20,667	22,111	21,941
	本社管理経費	3,558	610	624
	その他の支出	12,678	18,912	18,205
本体事業収支 [(a)-(b)] (c)		3,617	246	71
自主事業収入 (d)		316	203	313
自主事業支出 (e)		388	31	189
自主事業収支 [(d)-(e)] (f)		-73	172	124
全体収支 [(c)+(f)]		3,544	418	195
備考	新型コロナウイルス感染症拡大防止措置に伴う指定管理料の返還金は次のとおり（上記には含めず） 令和3年度 2,094,199円 ※令和4年度、令和5年度は返還金なし			

団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。
---------	------------------------

## 7 管理業務の履行状況

検査方法	チェックリストに基づき、指定管理者へのヒアリング及び現地確認により検査を実施
実施時期	令和5年12月28日

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	加点事由あり
人員配置・地元活用	適正に実施	加点事由あり
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	
有	全ての開館時間において正規職員を配置しているほか、専門的な資格・技術・経験を有する人材を育成するための研修受講や、実際の状況を想定した緊急時の対応に関する訓練を行っており、利用者の安心・安全や満足度の向上に寄与していることから加点対象とする。	

## 8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	有
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	○
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	○
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	○
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	○
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	○
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	○
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	○
その他取り組んでいること	リンクを貼る場合「外部リンク」表記を行っている。

## 9 指定管理者の自己評価

- ・受託2年目は「東林ふれあい市」「防災フェスティバル」といった大型イベントを開催し、登録団体をはじめ多くの地域住民に東林ふれあいセンターを知り、活用していただく機会を提供できた。
- ・受託初年度は集客が難航した講座についても徐々に改善し、定員に近い参加者を得られるようになった。ミニコミ紙やHP、SNSといった広報に加え、「毎日何かを実施している」事業体制の維持に努めたため、目的のものがなくとも別の事業をご案内しお客様を逃がさない仕組みが整ってきた。
- ・新型コロナウイルス感染症流行前の利用人数、利用率にはまだほど遠いが、事業での集客や施設PRに努め、年度ごとに数値を上げ、流行以前の利用に近づけていきたい。

## 10 所管課意見

- ・指定管理2年目となり「東林ふれあい市」や「とうりんサイエンスデー」などの大型イベントの開催により地域を巻き込んだほか、「リフレッシュヨガ」を夜間に開催するなど、幅広い世代の利用や交流を確保したことを評価する。
- ・企画提案事業や自主事業では、前年度に定員に満たなかった事業が定員増枠となるなど、参加者の声を反映させ、新規参加者にとっても参加しやすく、よりニーズに応じた内容とした結果であると考えている。
- ・引き続き、施設の特性を生かした事業の展開や、さらなる広報活動などにより、リピーターのみならず、新規利用者を確保し、施設の利用促進を図ることを期待する。

## 11 選考委員会意見

- ・利用者満足度調査は、近隣の住民の回答が多く、職員の広報活動の結果が徐々に表れたものであると考えている。しかしながら、本施設の近隣である旭町（大野南地区）からの来所者が少ないように見受けられるため、同地区にミニコミ誌「わくわく」を配布することで、知名度の向上や来所者の増加を図ることができると考える。
- ・企画提案事業と自主事業は合計30事業も実施しており、それぞれの事業で様々な工夫をしていることを評価する。
- ・イベントで子と一緒に施設を訪れたところ、利用者はとても楽しそうであった。これまでは高齢者を中心とした事業が多かったが、現在は多世代交流が深められる事業を多く実施している。引き続き、新しいアイデアを取り入れて施設の運営を続けてほしい。
- ・令和4年度と比較すると、総合評価は変わらず「A」評価であったが、成果指標の達成度や利用者満足度は向上しており、施設の運営に対して努力していると評価する。新型コロナウイルス感染症の影響で施設の利用は減少し、それを急激に増加させることは難しいと思うが、今後も増加させるための工夫をして、地域の活性化を図ってほしい。
- ・企画提案事業や自主事業は、東林公民館と同じような内容のものがある。東林地区は広く、居住エリアによっては、同じような事業であれば自宅から近い東林公民館の事業に参加すると思う。引き続き、これまでの指定管理の経験を生かし、既存の枠にとらわれることなく、よりよい事業が展開されることを期待する。

